

# 一般質問

文中の傍線部分については、3ページに用語解説を掲載しています

## 防災・減災の機能強化について

**平畑 武議員**  
(新政みえ)  
鈴鹿市選出



**問** 県の災害対策本部は非常に小さく手狭です。自衛隊・警察・消防等の関係機関が一堂に会することができると災害対策本部センターの整備が必要ではないでしょうか。また、市町が指定する指定緊急避難場所へより安全に避難するために避難路の整備が必要だと思います。

**答** 迅速かつ確実に災害対応ができる環境の整備に向けて、今年度は災害対策本部スペースの拡張に取り組みます。防災センターの本格的な整備には多額の費用を要するため、中長期的な視点で施設整備を検討します。

また、避難路整備に係る市町負担分の2分の1を支援する補助制度を新設したところであり、今後も地域の避難対策を支援します。



災害対策本部の様子

○横断歩道の塗り直し計画の考え方  
○道路路面標示等の整備について



▲一般質問 (平畑 武議員)

## 男性の育児参画について

**石垣 智矢議員**  
(自由民主党)  
いなべ市・員弁郡選出



**問** ユニセフ(国連児童基金)の格付けによると、日本の育児休業制度は世界1位と評されています。しかし、男性の育児取得率の実態は約14%と先進国では最低水準であり、制度はあるが取得できる風土がありません。男性の育児参画を進めるためには、社会全体の意識を変えていくことが重要ではないでしょうか。知事の考えを伺います。

**答** 育児の負担が女性会全体の構造・意識を変えていく必要があります。男性の育児参画を進めるためには、所得の保障と企業への理解が重要であると考えています。国において給付面の強化に向けた議論が進められていますので、県では、企業との意見交換の場を設けるなど、男性の育児参画の促進に向けた働きかけを行ってまいります。



○令和8年度開通予定の東海環状自動車道およびアクセス道路の整備について



▲一般質問 (石垣智矢 議員)

## 線状降水帯発生等集中豪雨時の県の対応について

**谷川 孝栄議員**  
(章舞)  
東紀州選出



**問** 先日、知事に対し「線状降水帯の発生を受けた際の情報発信の強化」、「これまでがけ崩れや路肩崩壊が発生した箇所周辺区域の監視の強化と災害防除の実施」、「総合的な内水氾濫対策の実施」の三点について申し入れをしたところですが、線状降水帯発生等集中豪雨時の県の対応についてお聞かせください。

**答** 県内で初めて線状降水帯が観測された6月2日の大雨に際しては、気象台からの予報発表後、速やかに市町へ情報提供し、気象台との情報連絡会議を開催するとともに、知事から県民に対する呼びかけを行いました。今後も、大雨が予測される際は、早めの避難を呼びかけるとともに、平時においても、線状降水帯の特徴や、命を守る行動について啓発を行います。



○大雨・南海トラフ巨大地震・有事への防災対策について



▲一般質問 (谷川孝栄 議員)

## ひきこもりサポーター制度創設に向けて

**山内 道明議員**  
(公明党)  
四日市市選出



**問** 内閣府の調査結果から単純推計すると、県内で約1.6万人の方がひきこもり状態にあると考えられるため、支援の拡大に向けて、より実践的で効果のある取り組みを探っていく必要があると思えます。「三重県ひきこもり支援推進計画」に記述されている「ひきこもりサポーター制度の創設」の検討状況についてお聞かせください。

**答** 令和4年度は、他を行うとともに、市町や社会福祉協議会等の職員で構成する「ひきこもり支援連携調整会議」を県内3圏域で開催し、サポーター制度について意見交換を行いました。



○インクルーシブ遊具について



▲一般質問 (山内道明 議員)

## 農業の振興について

**藤田 宜三議員**  
(新政みえ)  
鈴鹿市選出



**問** 国は「食料・農業・農村基本法」の改正に向けて、食料安全保障の強化や農林水産業のグリーン化、生産性の高い農業の確立といった方向性で議論を進めています。三重県では、農業従事者の減少・高齢化が急速に進んでいます。農業生産力を高めていくために、県はどのような対策に取り組むのか、お聞かせください。

**答** 県では、農業の生産力を高めるために、農地の集積、担い手の経営力の向上、スマート技術の活用等重点的に取り組んでいます。今後も引き続き、県民に安全・安心な食料を安定的に供給できるように、法改正の方針や国の施策の展開方向を注視しつつ、関係機関としっかり連携して取り組めます。



ドローンを活用した農業散布の様子

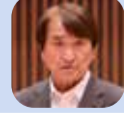
○三重県人口減少対策方針(最終案)について



▲一般質問 (藤田宜三 議員)

## 水産業と観光業の連携について

**野村 保夫議員**  
(自由民主党)  
伊勢市・鳥羽市選出



**問** 伊勢志摩の観光の基本は、伊勢神宮にお参りして、鳥羽・志摩で風光明媚な景色を見ながら新鮮な魚介類を食べることだと思います。海水産物の減少や水産物の減少が続くと、伊勢志摩観光の基本が根本から崩れてしまうので、水産業の振興のために観光部と積極的連携する必要があります。県の考えをお聞かせください。

**答** 環境や社会、経済への影響を配慮した持続可能な観光地づくりのためには、観光地づくりに法人を中心に、地域の観光事業者や水産業者などが一体となって連携し、地域特有の観光の魅力を発信することが必要です。県では、水産業の厳しい現状に危機感をもちつつ、地域の仕組みづくりや地域の魅力発信をしっかりと支援します。



海女小屋

○中学校における休日の部活動の地域移行について



▲一般質問 (野村保夫 議員)

## 子ども医療費助成制度における現物給付窓口無料推進について

**下野 幸助議員**  
(新政みえ)  
鈴鹿市選出



**問** 三重県では、幼保卒園年度(6歳年度)まで、子どもの医療費の窓口無料化が行われていますが、小学生になると、居住する市町によって助成制度にバラツキが生じています。子ども医療費の助成制度は、人口減少対策に大きく寄与します。県内の全29市町で、中学生まで統一して窓口無料化が行われるよう、県の補助を拡大する必要があります。県の考えをお聞かせください。

**答** 子ども医療費の助成の実施が、住んでいる都道府県や市町村の財政状況等によって変わるのをおかしいと考へますので、全国一律の18歳までの無償化制度の創設を国に要望しています。実現のためには大きな財政負担が生じますので、国の議論を注視しながら、検討を続けてまいります。



○人口減少の認識と「三重県人口減少対策方針(最終案)」について



▲一般質問 (下野幸助 議員)

文中の傍線部分については、3ページに用語解説を掲載しています